

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|------|
| ① 国語 | 130人 |
| ② 算数 | 130人 |

5 留意事項

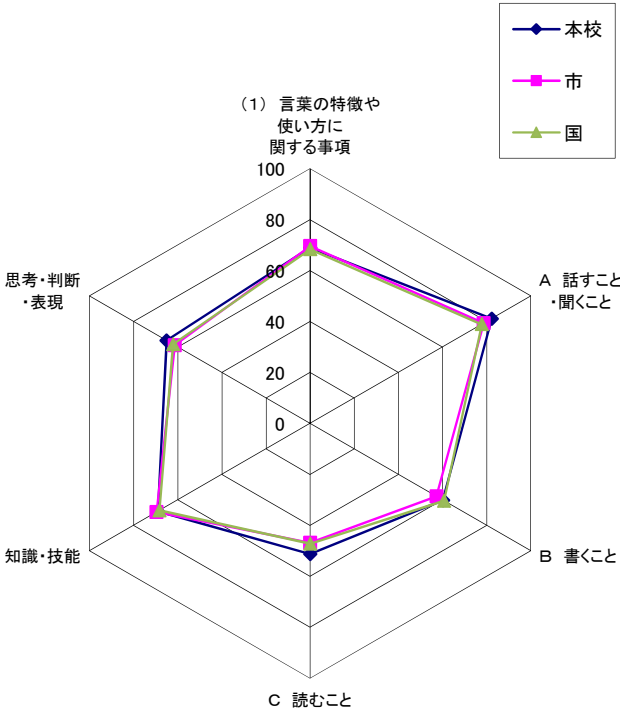
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.3	78.7	77.8
	B 書くこと	60.2	57.3	60.7
	C 読むこと	51.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	69.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	65.1	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

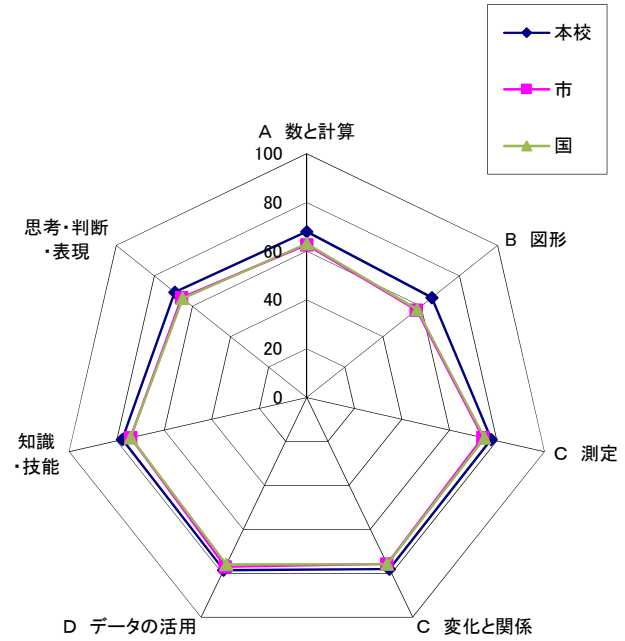
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○この領域の平均正答率は全国や県と同程度である。 ○文章の中で正しく漢字を使えるかを問う問題では、「転がる」が76.6%、「原因」が79.7%であり、ほぼ身に付いている。また、言葉の使い方についての問題の正答率も95.3%であり、よく身に付いている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字については、文章の中で使えるよう、練習や家庭学習の仕方を工夫し、引き続き指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は全国や県より高い。 ○スピーチの構成に関する問題や、話す内容として適切なものを選ぶ問題の正答率はいずれも80%を超えており、ほぼ身に付いているといえる。	・引き続き、国語以外でも話す機会、話し合う機会を設けることで、話すことや聞くことの力を伸ばしていく。
B 書くこと	○この領域の平均正答率は全国や県と同程度である。 ○「掃除用具は掃除担当の人が片づければよい」という考えに反対する意見と理由を掃除担当の話を引用し、文字制限のある中で詳しく書く問題の正答率は、61.7%であり、全国の正答率より5ポイント以上高かった。他領域、他教科においても、記述で答える問題の正答率は低い傾向にあるので、更なる向上を目指したい。	・自分の考えを書く機会を意図的に設けて書く力を伸ばす。その際、書く時の手がかりとして書き始めの言葉を示したり、書き方の型や手本を示したりするなど工夫していく。
C 読むこと	○この領域の平均正答率は全国や県よりやや高い。 ○面ファスナーに関する説明文を読み、内容の中心となる事柄を把握しているかを問う問題の正答率は、全国平均より6ポイント高い83.6%であり、ほぼ身に付いていると言える。 ●文章と図を結び付けて必要な情報を見付けたり、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率は、全国平均より3.1ポイント高かったものの、40%に届かなかった。	・説明文の学習の中で、丁寧な読み取りや、中心となる文や語を端的に捉えて書く学習を積み重ねていく。正答率が低かった問題は、いずれも記述式で答えるものであったので、読み取ったことを要約につなげられるようにしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.0	62.6	63.1
	B 図形	65.6	57.5	57.9
	C 測定	77.6	74.1	74.8
	C 変化と関係	78.1	75.8	75.9
	D データの活用	78.6	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.6	74.1	74.1
	思考・判断・表現	69.2	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○この領域の平均正答率は全国や県より高い。 ○23個のボールを6個ずつ箱に入れるときの箱の数を問う問題の正答率は86.7%でよく理解されている。 また、20mを1としたときに14mが0.7に当たるわけの説明を解釈し、30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを同じように説明する問題の正答率は57.0%であった。全国や県の正答率より5ポイント以上高い結果であるが、更に向上させたい。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・自分の解き方を説明する学習だけでなく、他の解き方を提示し、どのように考えたのかを説明させるような学習の仕方を意図的に設けることで、思考力を高めていく。
B 図形	○この領域の平均正答率は全国や県より5ポイント以上高い。 ○直角三角形の面積を求めるためには、どの部分の長さが分かればよいかを理解し、公式を使って正しく面積を求めることができた児童の割合は60.2%で、全国や県より5ポイント以上高かった。また、二等辺三角形を組み合わせてできる平行四辺形面積の求め方を筋道を立てて説明することができた割合も56.3%で、9ポイント以上高かった。	・三角形や平行四辺形の底辺と高さの関係を確実に理解させるため、様々な場合について考えさせるとともに、捉えた構成要素を基に、どのように求積するか説明させることで、筋道立てて考える力を更に高めていく。
C 測定	○この領域の平均正答率は全国や県より高い。 ○合同な直角三角形2つを組み合わせてできた2種類の四角形の面積について、正しく大きさを比べられるかを問う問題の正答率は80.5%、午後1時35分から50分後の時刻を問う問題の正答率も86.7%で、ほぼ身に付いている。	・自分の考えを相手に分かりやすく簡潔に文と式で説明する力を更に付けられるよう、記述したものを見合う学習スタイルを授業の中に適宜取り入れる。
C 変化と関係	○この領域の平均正答率は全国や県よりやや高い。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係を求める問題や速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題の正答率はいずれも85%以上であり、ほぼ理解されている。	・引き続き、道のり、時間、速さの関係を、数直線を用いて視覚的に捉えられるようにしたり、求め方を説明する学習活動を設けたりするなどして、理解を深めたい。
D データの活用	○この領域の平均正答率は全国や県よりやや高い。 ○棒グラフから数量を読み取る問題の正答率は97.7%で、よく身に付いている。データを二次元表に表す問題の正答率は76.6%で、全国平均より9ポイント以上高かった。	・複数の帯グラフを比較して、どんなことが分かるかを話合ったり、読み取ったことを端的に言葉や文章で表したりする活動を継続し、更にデータを読み取る力をつけていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○家庭学習については、「自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的に答えた児童の割合は76.1%で、全国平均をやや上回っている。今後も自主学習を工夫している取組を紹介するなどし、家庭学習への意欲を更に高めていきたい。

○読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間が、「2時間以上」と回答した児童の割合が10%と全国よりやや高い傾向であった。●一方で、「全く読まない」と答えた児童も26.2%おり、読む児童と読まない児童に差がある。今後は、読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○国語、算数、英語の学習についての質問では、「その教科の学習が好きか」に対して肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回っていた。「国語、算数の授業内容がよく分かるか」についても国語で90%、算数で86.1%の児童が肯定的に回答していた。また、国語・算数が「将来役に立つと思うか」や国語の授業の中で「自分の考えを広げている」、「算数の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の質問に対しても、高い肯定的回答をしている。今後も成長が実感できるような深い学びのある授業展開を工夫していきたい。

○授業についての質問では、「課題の解決に向けて、自分から考え取り組んでいる」「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう工夫して発表した」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもと新しいものを作り出したりする活動を行っている」など多くの問いに対して肯定的な回答の割合が高い。このことから、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいることが分かる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○学校生活についての質問では、「友達と協力することは楽しい」「人が困っているときは進んで助けている」の質問に対して、肯定的な回答の割合が90%以上で全国や県を上回っている。また、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童も85%以上であった。今後も、児童がお互いの良いところを認め合い、充実した学校生活を送れるようにしていきたい。

●ICT機器の活用に関する質問では、「授業で調べたり、意見交換をしたりするのにどの程度使用したか」について、「月1回以上」と回答した児童が1番多かった。これは、全国平均比べると低い傾向にある。今後は、1人1台の端末を授業の中に取り入れ、活用していきたい。

○家庭生活についての質問では、寝る時間、起きる時間、朝食の生活習慣に関する質問の肯定的回答が高い。「携帯電話やスマートフォン等の家の人との約束を守っているか」についても80%近くの児童が肯定的に回答している。使用時間についても半数以上が2時間以下で短い傾向にあった。今後も、使用時間については家庭との連携を図りながら、適切に使えるように指導していきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1話す・書く力の向上 2漢字の書き、構成、使い方に 関することや敬語など言語事項 に関すること 3数量や図形の基礎的な事項の 定着	1根拠を基に話す・書く。端的に、 順序良く、分かりやすく話す・ 書く。(授業のまとめ、振り返り、 自分の考えを表すときなど) 2漢字は文章の中で使えるよう書く 指導と合わせて行う。 3繰り返し学習や家庭学習の工夫	1国語の「書く」領域の正答率は 全国平均と同程度であった。それ 以外の記述で答える問題の正答 率は、全国平均より高かったもの の低い傾向にある。端的に順序良 く書く力をつけたい。 2漢字は、身に付いてきた。 3面積の公式の意味について更に 理解を深めたい。
